

3. 医 学

群馬大学医学部附属病院 草津分院 小 嶋 碩 夫

(昭和49年8月30日受理)

温泉の医学的効果として、含有成分による特異的作用と共に、反覆適用による非特異的作用としていわゆる変調効果が大きな役割をもっているが、温泉療養に不可分なもので、重要な意義を有するものとして、環境、気候が挙げられる。温泉地は各々その地理的環境が異なっており、従ってその各地の気候も当然同一ではない。かかる異なる環境、気候は古来転地効果として、温泉療養効果を考える上には不可欠のものとされており、それ自身が身体的に変調効果を示し、又心理的にも異なる効果をもっていることが実証されているので、温泉療養効果は、温泉自身のもつ効果とかかる環境の効果とが複合されたものとして把握されていると考えてよい。特に近年国土の全都市化傾向と共に各種の自然破壊や汚染が周辺に迫っている状況の下では、この他に日光(紫外線量)、自然の植生の持つ生物学的効果やその居住環境気候に及ぼす変化の効果や、滝や噴水等により生ずる水滴のレナード効果による空気イオン量の変化等の自然的要素の他、騒音や暖房煤煙等による大気汚染等の人工的要素等も、温泉療養効果に対して正負の因子として働くものと考えられ重視されなければならない。

この様な観点から温泉の医学的利用を最も効果的しかも適正にして行く為には、温泉それ自体のみならず、これに関係を有する種々の療養因子をよく見極め、各温泉が夫々最も適合した条件で総合的に活用されることが肝要である。

各温泉は夫々の泉質を考慮し、温泉の医学的適用手段、即ち浴用の他、飲泉や吸入、含嗽等への応用を積極的にすすめると共に、又温泉のもつ温熱作用、水力学的作用をも利用すべく、更には各種の物理療法の併用により目的に応じて適宜温泉効果を補足する為の方策が行われるべきであるし、当然のこと乍ら、保養、療養の滞在に適した居住環境、居住条件も整えられるべきであって、宿泊施設設備等の衛生学的、リハビリテーション医学的配慮や、騒音、大気汚染対策や、保養、療養の為の食餌献立の設定等の他、身体的精神的な調整に役立たせる為の運動(散歩から各種スポーツまで)、娯楽、観光や、読書、音楽や文化的な催し等も考慮すべきで、これらのすべてが一貫した意図による温泉保養療養地の都市計画の下で総合的に調整整備されることが必要となる。

各温泉には古来伝承されて来た伝統的適応症がある場合が多いし、又伝統的な特殊な温泉利用手段(例えば草津温泉での時間湯や、各地に見られる微温長時間浴や、蒸し湯や湯滝等々)が慣習的特長的に続けられている例も多いが、これらは長年月にわたる経験医学的帰すうであって、温泉の未知の作用因子や作用機序の医学的解明に貴重な緒口となる可能性をもつものとして貴重であり、是非とも尊重、存続させるべきであると考えらる。

各温泉地はその歴史的な発展過程も異なり、又療養因子の組合せは決して同一ではないことも考え合わせると、すべての温泉地が全く同じ形態に普遍的に類型化されるべきではなく、各温泉がその伝統的適応症等に基ずき、各々独自の適応症をかかげて、これに適合する様な方向づけがなされるべきであろう。

